

施工可能な下地水分はグレードⅠ、耐湿工法でグレードⅡa 床施工時の新判断基準 I F A 制定、ジェイシフが施工指針化 日本床施工技術研究協議会の成果採用

コンクリート・モルタル等の下地への床施工の際、下地の水分により施工の可否を決める判断基準は、I F A が制定し、ジェイシフが施工技術指針に明記した別掲表の「グレードⅠ」「グレードⅡa」「グレードⅡb」に基づく必要がある、として、両団体は、この新しい基準が広く理解されるようその周知・徹底に力を尽くしている。これまで長い間水分計で測り下地水分指標 8 % は可、10 % 以上は施工不可などとしてきたが、それはモルタル下地のもので、コンクリートやセルフレベリング材が多くなった現状には適さず、施工の支障などでビニル系床材の施工では業界に混乱も生じていたという。この基準は壁装工事でも注目すべきものと言えよう。

インテリアフロア工業会 (I F A) の説明によれば、旧来の「8 %」という数値は計測器メーカー(株)ケット科学研究所の「CH-2」型で計測した結果を使っていたものだが、同器はモルタル用のもので、現在はコンクリートが多くなったのでケット社はそれに対応する新計測器「HI-520」型を作成発売した。

この計測器の読み値が従来の計測器と大きく異なるため、同器による正確な判断基準を設定すべく、平成 18 年には、床材関係のメーカー、建築施工者と学識経験者からなる「日本床施工技術研究協議会」の中で研究が行われた。

その結果は「コンクリート床下地の表層部の諸品質の測定グレード」としてまとめられた。

それは、高周波静電容量式水分計「HI-520 型」に備えられている D モード (ダイレクトモード) で測定した読み値 (下地の静電容量と 1 次相関が得られる値) を用いて下地水分のグレード分けをしたものである。

同工業会は、このグレード分けを基に別掲表の通り、これまで使われてきた下地水分の指標との関係も示して、新たな下地水分の測定と判断基準を明示した。

日本建設インテリア事業協同組合連合会も、同工業会の提案を受け入れ、最近刊行した「内装工事施工技術指針」にこの判断基準を取り入れている。

下地水分の測定と判断基準

コンクリート・モルタル・セルフレベリング材等

水分計 HI-520 使用 D. MODE 厚さ: 40mm 温度: AUTO

グレード	選択 D. MODE	従来の下地水分指標 (%)	施工方法 目 安
I	440 未満	8%以下	一般工法
Ⅱa	440~620 未満	8~10%	耐湿工法
Ⅱb	620 以上	10%以上	施工不可

I F A インテリアフロア工業会制定

日本建設インテリア事業協同組合連合会・施工技術指針

注意)本書を無断で転載することを禁じます。